



べんけいだより

vol.7
2025.12

NEWS LETTER 担当：医療法人社団 兵 医院
院長 兵 佐和子 先生

耳の病気（耳鳴り、めまい）



音を聞く聴覚は大切な感覚の一つです。耳は、耳の穴から鼓膜までの「外耳（がいじ）」、伝わってきた音を鼓膜で受け止めて耳小骨（じしょうこつ）という小さな3つの骨を介して内耳へ伝える「中耳（ちゅうじ）」、音を神経の信号に変える蝸牛（かぎゅう）と平衡に関わる三半規管（さんはんきかん）・前庭（ぜんてい）といった器官が存在する「内耳（ないじ）」の3つに分かれています。音が聞こえにくくなることを**難聴**と呼びますが、最近の研究で**難聴は認知症の発症や**

進行に関係すると言われていて、早期発見をして対策をしなければなりません。耳の構造や働きから難聴と耳鳴りやめまいが関係している場合があります。**難聴**は気づかれないこともありますが、耳鳴りやめまいは誰でも一度は経験したことのある症状だと思いますので、今回は、それらについてお伝えします。

1) 耳鳴り

耳鳴りについて、大きさや音の高さ、頻度や苦痛の度合いが重要になります。耳鳴りの音として、ザー、シャー、ピーや蝉の鳴く音、モーター音などと表現されることがありますが、自覚的な音なので音によって原因がわかることはありません。しかし、筋肉の活動や血管の変化によって生じる拍動性の耳鳴りは、時には他の人も聞くことができるので、「どんな時に大きくなるか」などを詳細に質問し、実際にきいてみる事

で病変を推測することができます。**拍動性の耳鳴りは耳鳴り全体の10～15%と言われていて、そのうち半数以上が血管内の雑音と考えられています。血管の走行異常や動脈瘤が関係し、放置しておく危険な場合もあるため脳神経外科や脳神経内科などへ紹介する**



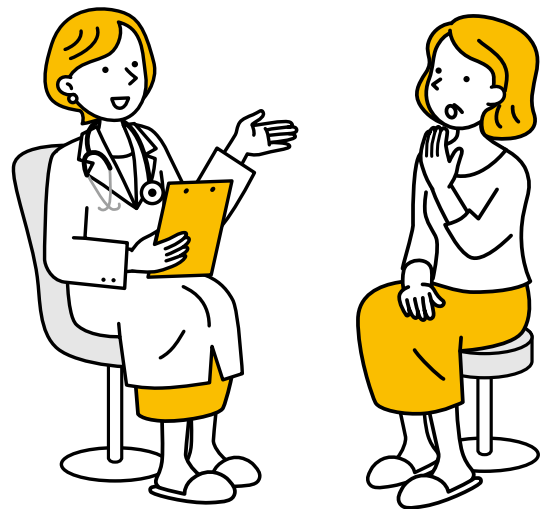
こともあります。

耳鳴りの9割に難聴が関係していると考えられているので、まず聴力検査を行い、確定診断が得られない場合は適宜必要な検査を行います。最近イベントなどで聴力を測定できる場面やスマートホンのアプリなどがありますが、そこで難聴と判定されなくても耳鳴りがある場合は、耳鼻咽喉科への受診をお勧めします。

2) めまい

めまいには天井がぐるぐる回る回転性めまいや頭がフラフラしたり、足がふわふわしたりする浮動性めまい、他にも目の前が真っ暗になる立ちくらみなどさまざまな症状があります。めまいを起こす病気は、耳の病気や脳の病気、心臓の病気も関係していることがあり、中には緊急に対処しなければならないものもあります。

私たちの体には姿勢のバランスを保つ働きが備わっていますが、その一つを内耳にある三半規管と前庭で担っています。これらの機能に異常を来すとめまいが起きます。三半規管と前庭の近くに聞こえに関係した蝸牛があるので、めまいと難聴・耳鳴りは同時に起こることがあります。めまいの症状だけでどこが悪いのかを判断することはできませんが、いろいろな検査を組み合わせる事で耳の中のどこが悪いのか、耳は関係ないのかなど診断することができます。ただし、めまいに加えて急に意識がなくなったり、手足が動きにくかったり、言葉が話しにくいなどの症状が出た時は脳の病気を疑い、まず内科などへの受診をお勧めします。そのような他の症状がない場合やめまいの他に耳鳴り、難聴がある場合は耳鼻咽喉科を受診してください。



発行：京都市下京区・南区・東山区在宅医療・介護連携支援センター
〒601-8452 京都市南区唐橋堂ノ前町 15-9 エステート南ビル 301
一般社団法人 下京西部医師会内
電話：075-693-8677 FAX：075-693-3677
ホームページ：<https://www.ishikai.or.jp/renkei-center/>
E-mail shimominami-ikai@ishikai.or.jp

